

イギリス中世武具事典

—英文学の背景を知る—

三谷康之 著 A5・460頁 定価(本体9,250円+税) ISBN978-4-8169-2725-6 2018年6月刊行

英文学作品から648編の用例・文例と 417点の写真・図版

- シェイクスピアやスコットからフォレットや
トールキンまで、英文学作品を読み解く際に必
要となるイギリス史における武具・武器・武術
競技を詳説する“読む事典”です。
- 甲冑・刀剣・槍・弓・楯、およびそれらを駆使
する武術を解説するとともに、これらが登場す
る小説・詩・戯曲での場面を原文引用と翻訳で
紹介。風俗習慣・歴史まで、既存の辞書やガイ
ド類では調べられない用語・事項を多数収録し
ました。
- カラー口絵のほか、本文中には400点におよぶ写
真・図版を掲載、視覚的理解にも役立ちます。

著者プロフィール 三谷 康之 みに・やすゆき

1941年生まれ。埼玉大学教養学部イギリス文化課程卒業。成城学園高等
学校教諭、東洋女子短期大学英語英文科教授を経て、2002～10年まで東
洋学園大学現代経営学部教授。1975～76年まで成城学園在外研究にて、
英文学の背景の研究調査のためイギリスおよびヨーロッパにてフィール
ド・ワーク。1994～95年まで東洋学園在外研究にて、ケンブリッジ大学
客員研究員。

主要著書 [単著]:『事典 英文学の背景—住宅・教会・橋』(1991年、凱風
社)／『事典 英文学の背景—城廓・武具・騎士』(1992年、凱風社)／『事典 英
文学の背景—田園・自然』(1994年、凱風社)／『イギリス観察学入門』(1996
年、丸善ライブラリー)／『イギリスの窓文化』(1996年、開文社出版)／『童話の
国イギリス』(1997年、PHP研究所)／『イギリスを語る映画』(2000年、スク
リーンプレイ出版) [共著]:『キーパー写真で見る英語百科』(1992年、研究
社)／『現代英米情報辞典』(2000年、研究社出版)

目次 (Contents)

まえがき (Preface)

凡例 (Guide to the Encyclopaedia)

第Ⅰ部 Armour: 甲冑

Mail Armour; Mail-Armour 鎖帷子型の鎧; 鎖鎧/Plate Armour;
Plate-Armour 板金鎧/Surcoat 陣羽織/Tilt(ing) Armour;
Jousting Armour 馬上槍試合用甲冑; 騎乗槍競技用甲冑

第Ⅱ部 Armour Development: 甲冑の発達

1. History of the Armour 甲冑の歴史
2. Armourer 甲冑[鎧]師; 甲冑[鎧]鍛冶; 介添人

第Ⅲ部 Arms: 武器

1. Hafted Weapon or The Blade 刀剣類
Sword 剣; 刀/Dagger 短剣; 短刀/Sword(-)and(-)Buckler Fight
剣と小盾を使った試合／
2. Staff-Weapon 長柄の武器
Bill (長柄の)矛/Corseque; Corseque 三叉槍/Gisarme;
Guisarme 長刀槍/Glaive 長刀/Halberd; Halbert 斧槍/Javelin
投げ槍/Partisan; Partizan バルティザン/Pike バイク槍/
Poleaxe; Pollaxe 長柄の戦斧; ポウラクス/Spear 槍、槍兵/
Truncheon 槍の柄、職杖、警棒
3. Striking Weapon 打撃用の武器
Battle-Axe 戦斧、死利用斧/Martel-de-fer 戦槌/Mace メイス;
メイス型打撃棒
4. Missile Weapon 弓の類の飛び道具
Crossbow; Cross-Bow 弩; 十字弓; クロスボウ/Handbow;
Hand-bent Bow 手弓/Longbow; Long(-)Bow 長弓

第Ⅳ部 Shield: 盾

Shield 盾; 楯

第Ⅴ部 Chivalrous Game: 武術競技

Tournament; Tourney 団体騎馬[馬上]武術試合、総武術大会/
Joust 馬上槍試合; 騎馬槍試合/Lance; Jousting [Tilting] Lance
ランス; 競技用長槍; 試合用木槍、この槍を武器とする騎兵や競技者

付録

本事典に引用した作家と作品の一覧 (A List of Authors Quoted in
the Encyclopaedia) / 参考書目 (Select Bibliography) / 索引 (Index)

あとがき (Postface)

2018.6

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

イギリス中世武具事典 —英文学の背景を知る—

定価(本体9,250円+税) ISBN978-4-8169-2725-6

冊



9784816927256

● comb (兜の鶏冠)

発音は[コウム]に近い。'crest*'といってこれを指すこともある。兜(helmet*)の正面から天頂部(apex)を通して背面にまで達して付いているもので、ニワトリの鶏冠のように隆起した部分を指す。通例はそれが1本だが、中にはその1本を挟んでさらに左右両側に1本ずつ、計3本つくものもある。そして、それぞれに縄目模様が施されている場合は、'three roped combs'と呼ばれる。

兜の強度を増すのみならず、受けた打撃を逃らす(glance)働きもある。16世紀の後半のモリオン型兜(morion*)やバーゴネット型兜(burgonet*)では、それが異様に隆起したものが少なくない。写真 56., 57.



59. roped comb (縄目模様付き鶏冠)。Tower of London [E]



60. keel-shaped comb (船の竜骨形鶏冠)。Tower of London [E]

● plume; plumage (兜飾り; 兜の羽根飾り)

'crest*'といってこれを指すこともある。兜(helmet*)の頂部につけた「飾りもの」を指す。あるいは帽子などにつけるそれという。

ダチョウの羽根(ostrich feather)など、鳥の羽根の大きなものならその1枚(large feather)を、小さなものはそれを束ね(a bunch or tuft of feathers)て用いられた。前者を'a feather plume'、後者は'a plume of feathers'と呼ぶ。初期には

『イギリス中世武具事典—英文学の背景を知る』内容見本

の尻尾を束ねたものも使われた。それは'a horsehair plume'あるいは'a plume of horsehair' などという。これを差し込むもの(plume[crest] holder[tube])は、兜の頂部や、あるいは兜の後部で首の付け根、つまり鶏冠(comb*)の末端部に取りつけてある。

15世紀あたりから派手になり、16世紀および17世紀には、そのサイズは益々大きなものになって、17世紀の中葉以降は廃れて行く。ちなみに、全身を甲冑に包んだ騎士(knight*)の場合、「頭の天辺から足の爪先まで」(from head to foot)の意味で、'from spur to plume' (拍車から兜の羽根飾りまで)という表現がある。写真 54.~57., spur

【用例】

'waving plume' (風に揺れる兜飾り) (Scott: Minstrel) / 'the eagle's plumage' (鷲の羽根飾り) (Scott: Marmion) / 'the feather on his crest' (兜に付けた羽根飾り) (Scott: Lady) / 'his plumed helm was soon undone' (羽根飾りの付いた彼の兜はすぐに脱がされた) (Scott: Minstrel) / 'a large plume of scarlet and black feathers' (緋と黒の羽根から成る大きな兜飾り) (Walpole: Otranto) / 'a long plume which floated down from his barret-cap' (彼のバレット帽から垂れている長い羽根飾り) (Scott: Ivanhoe)

【文例】

* The gay plumage, shorn from the crests, drifted upon the breeze like snowflakes.

—W. Scott: *Ivanhoe*

(競技者たちの兜から千切れ飛ぶ色鮮やかな羽根飾りは、そよ風に乗って雪片のように空中に漂っていた。)

✱ heaume; helm (大(型)兜): 前者の発音は[ホウム]に近い。敢えて'great helm'ともいう。顔面を含め頭部全体を包み隠し、かつ肩に載せる大型のタイプ(large helmet*)で、12世紀の末~13世紀の初頭に登場した。もっとも当初のタイプはその重量が全て頭部に掛かるものであった。鉄製(iron)や鋼鉄製(steel)あるいは硬くしたなめし革製(stiffened leather)もあって、肩に載る

■三谷康之著の既刊

イギリスの教会事典—英文学の背景を知る

A5・670頁 定価(本体15,000円+税)
ISBN978-4-8169-2648-8 2017.3刊

イギリスの城廓事典—英文学の背景を知る

A5・480頁 定価(本体8,200円+税)
ISBN978-4-8169-2440-8 2013.11刊

イギリス「窓」事典—文学にみる窓文化

A5・480頁 定価(本体9,143円+税)
ISBN978-4-8169-2075-2 2007.12刊

事典・イギリスの橋—英文学の背景としての橋と文化

A5・280頁 定価(本体6,600円+税)
ISBN978-4-8169-1877-3 2004.11刊

イギリス紅茶事典—文学にみる食文化

A5・270頁 定価(本体6,600円+税)
ISBN978-4-8169-1718-9 2002.5刊